

付録 1 下関市における斜面地居住者の生活問題

関門共同研究会では、平成 20 年度から斜面地居住者の生活問題をテーマに調査を実施してきた。下関市立大学側の関門共同研究会斜面地班では、調査開始 2 年目である平成 21 年度の調査対象として、下関市の中心市街地に点在する斜面地においてアンケートを実施し、居住者の生活問題について調査した。今回のアンケート調査は、下関市総合政策部および財団法人下関 21 世紀協会の協力をえて実施した。本調査は中心市街地の斜面地を調査地区とするが、下関市立大学が担当する地区を南部町および観音崎町とした。本報告書は、対象地区において採取したアンケートデータ 54 件をもとに分析した結果を報告するものである。

1 調査地区の概要

1-1 中心市街地における斜面地とその問題

下関市は、本州の最西端にあり、関門海峡を挟んで日本海と瀬戸内海に接している。九州と対峙する位置にあり、また山陽道と山陰道の結節点であったため、九州あるいは大陸への通過点という地理的特徴を持ち、古くから栄えてきた地域である。古くから西南部地区一帯に集中していた問屋街を中心に市街地が形成されており¹⁾、1889 年に赤間関市として市制を施行して以降も、山口県を代表する拠点都市として、海運や貿易に関連した産業を中心にして発展してきた。旧市街地は、下関駅から唐戸地区にかけて稜線が海岸まで接近する地形で平地が少ない。この一帯を中心に市街地が形成されてきた過程から、海岸線から少し奥に入った急傾斜地にまで集落が形成されている。今回の調査地である南部町、観音崎町はこのような中心市街地にあり、明治後半から昭和初期にかけては金融機関が集積して一大金融街として栄えていた地区である。また、南部町には市役所があり、政治の中心地でもあった。

しかし、近年の不況と郊外型居住への移行が原因で、この地区の生活環境は徐々に変化してきている。特に居住条件が不利な急斜面地では、高齢化やそれに伴う限界コミュニティなど、将来的には様々な問題の発生が推察されている。その一方で、海に面した付近では近年大規模なウォーターフロント開発が行われた。唐戸市場の立て替えやカモンワーフ、水族館など、大規模な観光施設の建設が地区のイメージアップに繋がり、このエリア一帯で大型マンションの新築が相次いだ。このような背景からウォーターフロントとしての地区ブランド構築に向けた生活環境の向上や、景観の観点からも地区の生活問題を見ていく必要がある。

今回の調査は以上のような背景から企画されたものである。調査内容としては、斜面地に居住する住民および住居の基本的な属性と、生活問題として買い物や通院の実態、さらには社会問題としてコミュニティや景観に関する項目を調査した。また、住民の主観的な生活環境の評価として、住みやすさや転居の希望等も質問項目として挙げた。また、アンケートと並行して周辺地域を含めた地勢の特徴、主に日用品の買い物に行くスーパーまでの位置関係を調査した。

これらのデータにもとづいて、情報工学的な観点に立ってデータを分析し、対象地区における生活問題の実態を明らかにする。

1-2 南部町、観音崎町とその周辺

対象地区は、下関市の中心部に位置し、下関市役所へも近い。最寄りの駅は下関駅であるが、徒歩圏内ではないのでバスを利用することになる。バス停は唐戸等があるが、市役所前を通る幹線道路に面しているためバスの便は非常に良い。また、門司港への連絡船が出港する唐戸棧橋が近く、交通の便は良い地区であるといえる。図1は調査対象地区の地形（地図は電子国土ポータル Web システムによる）である。幹線道路沿いには公共施設や商業ビル、住居が建ち並んでいる。また、主要な施設にマーキングしているが、地図からもこの地区の利便性が高いことがうかがえる。スーパーマーケットは東にサンリブ唐戸店、西にハローデイ海峽夢タワー店があり、この間の距離がおおよそ1.4キロメートルである。したがって、この地区の住民はスーパーマーケットに買い物に行くのに800メートルも歩かなくてよい。また、国道9号線にコンビニなどちょっとした買い物ができる店舗が並んでいる。海拔は最も高い位置で40メートル強となっている。階段の段数は多い場所で200段強であった。アンケートの対象地区を図2に示す。南部町、観音崎町の住宅のうち通りに面していない斜面地にある一軒家を対象にアンケート票を配布した。また、斜面地のマンションとして「南部町マンションCOOP 下関」も対象とした。

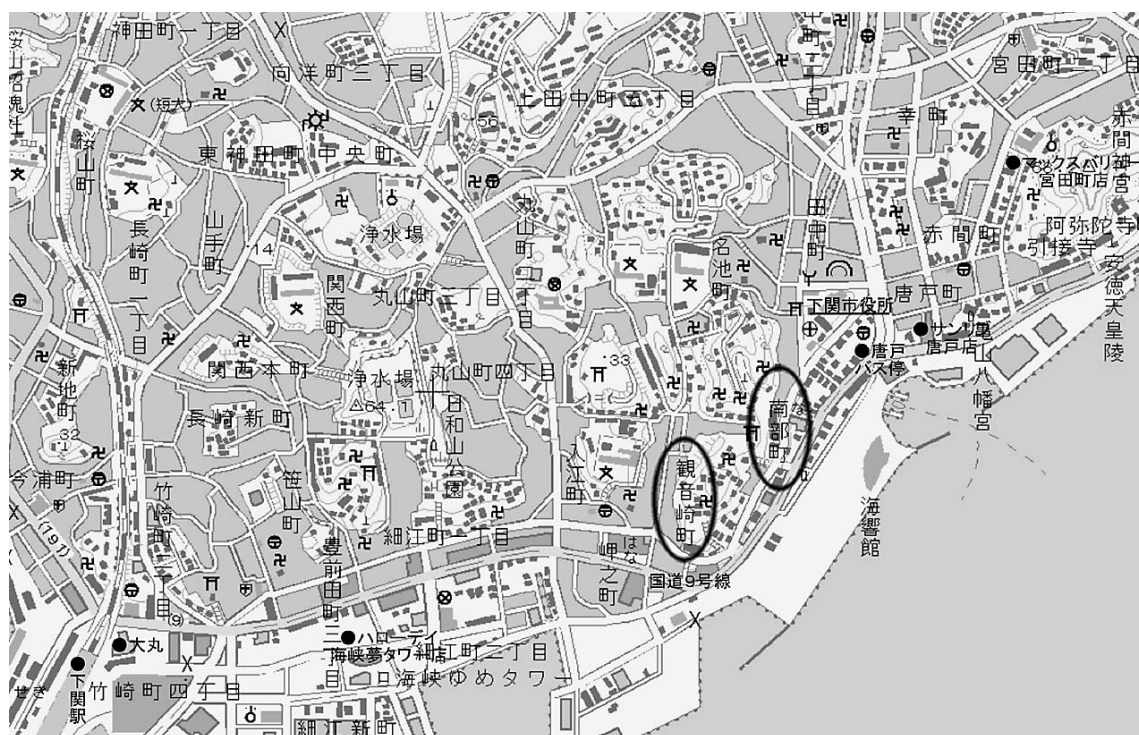


図1 対象地域の道路地図と主な施設（電子国土ポータル）

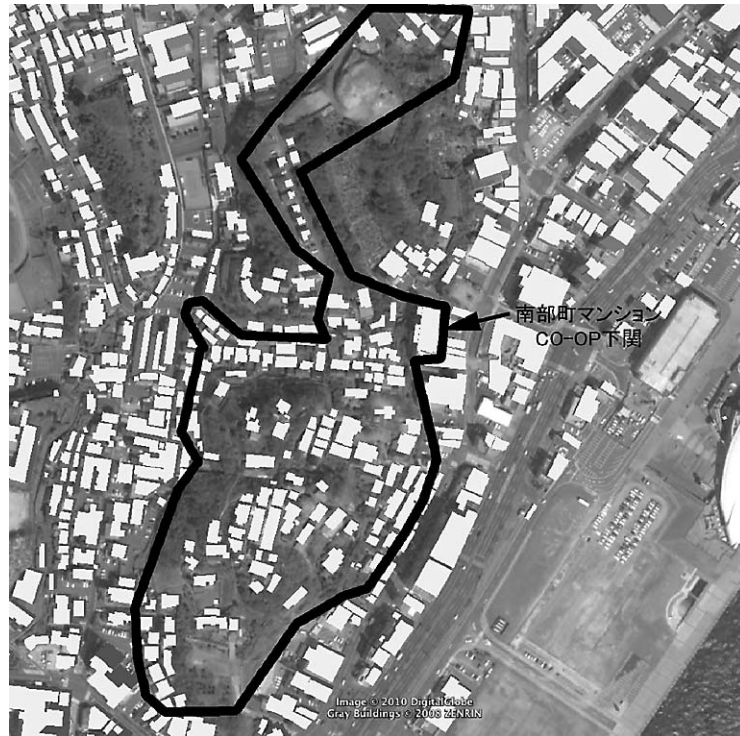


図2 アンケート票配布地域

1-3 南部町、観音崎町の人口および世帯数の推移

南部町は古くは東南部町と西南部町に分かれていた。観音崎町は西南部町に含まれていて、「天保9年赤間関人別帳」²⁾によると、寛政4年調べでは東南部町307戸1,113人、西南部町220戸795人、天保9年調べでは東南部町275戸1,010人、西南部町212戸1,140人となっている¹。昭和35年以降の下関市、南部町、観音崎町の人口および世帯数の推移を図3、図4に示す。この地区の人口は、1960年頃から現在まで減少傾向にあることがわかる。

対象斜面地では、第2次世界大戦以前に既に集落が形成されていた。図5は、2006年に作成された1940年から1944年頃の南部町、観音崎町境界の地図である。「椿谷」「天竺」「天天竺」といった地域が斜面地にあたり、既に集落が形成されていた事がわかる。図6は空襲直後の観音崎町である。平地から斜面にかけて、木造の建築物はほぼ焼き尽くされていることがわかる。写真右上の斜面頂上部の被害は少なく、木や木造の建築物がいくつか残っている。図7は昭和30年代、40年代、50年代の対象地域である。傾斜地の古い建物の多くが昭和30年代から40年代にかけて改築され、さらに建物が建っていなかった場所に家屋が建築されている様子が見られる。以上から、この地域の建物の多くは空襲で焼失し、斜面上部の残された家屋の多くは取り壊され、昭和30年代以降に改築あるいは新築されたものであると判断できる。

¹ 当時の東南部町、西南部町には現在の田中町、唐戸町なども含まれ、現在よりも広い地域を指していた。

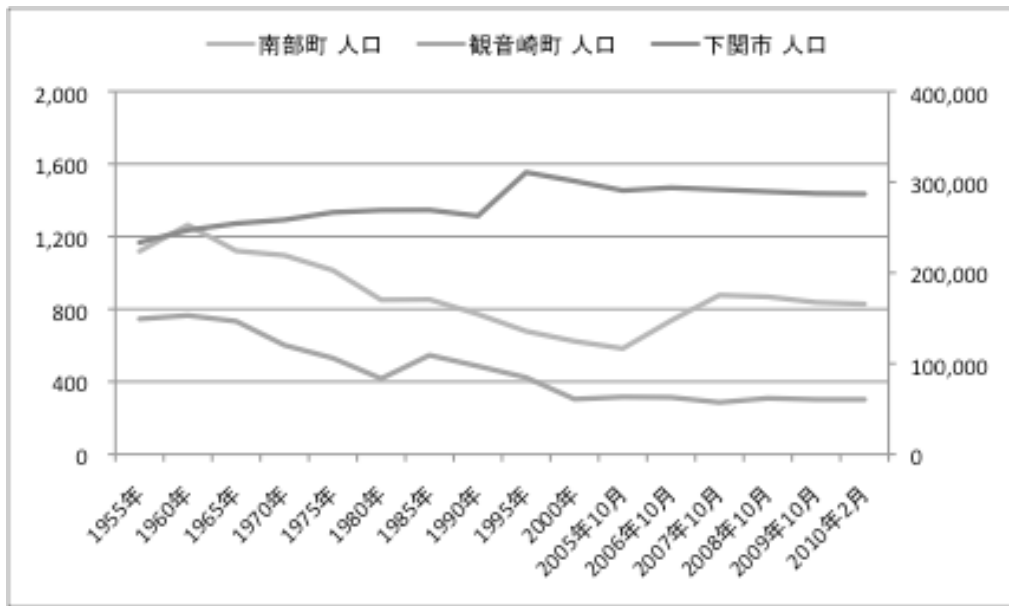


図3 下関市、南部町、観音崎町の人口推移

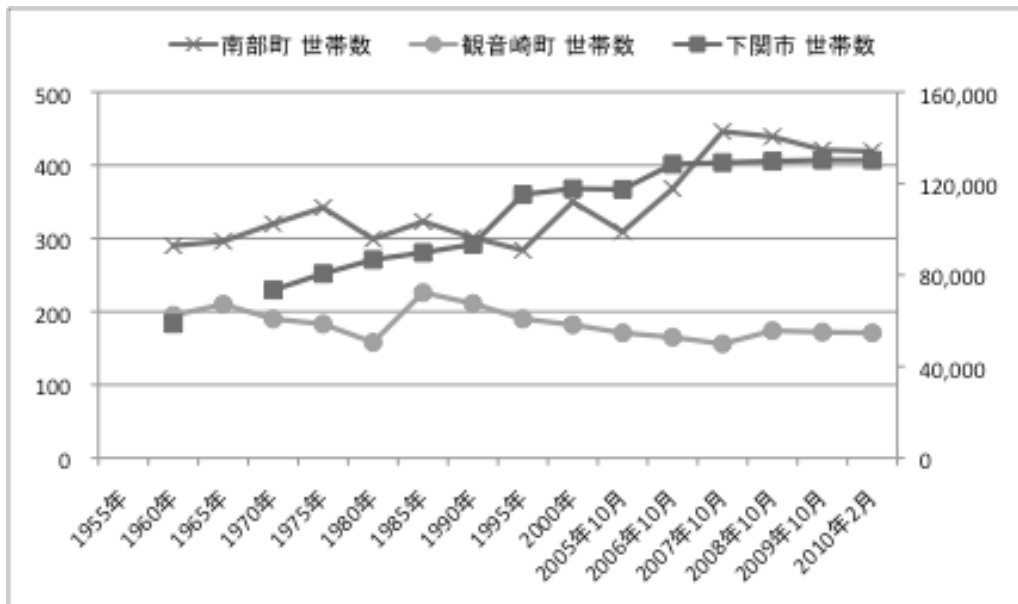


図4 下関市、南部町、観音崎町の世帯数の推移

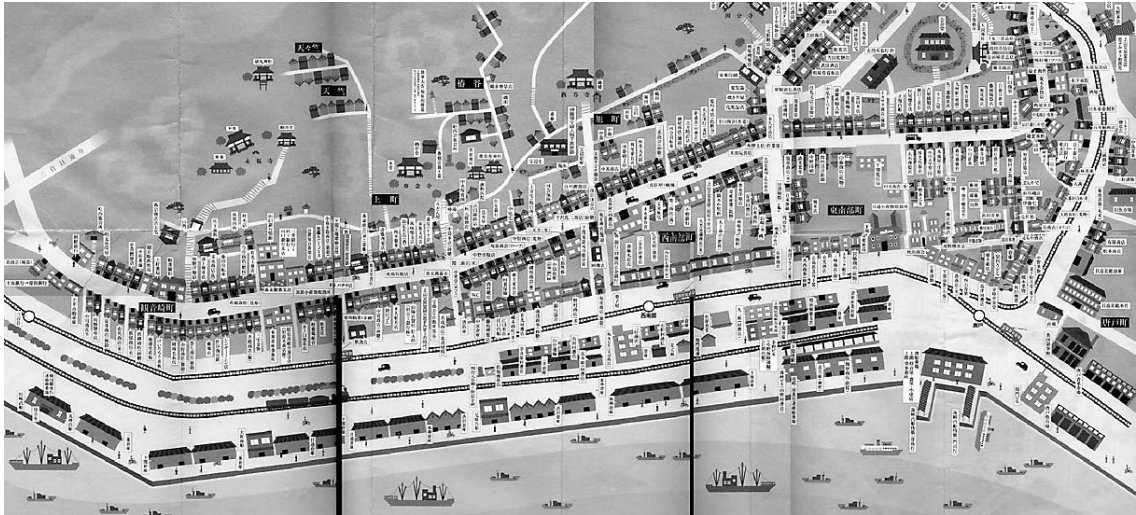


図5 下関市南部町、観音崎町界限図（下関信用金庫 2006 年）

※戦前の居住者ならびに勤務者の記憶に基づき作成された。建物などの形状はイメージ。



図6 南部町から観音崎町の廃墟（1945年10月7日撮影）
（写真が語る山口県空襲）³⁾

※中央右の白い建物は不動銀行、その上の鳥居が恵美寿神社であると思われる。

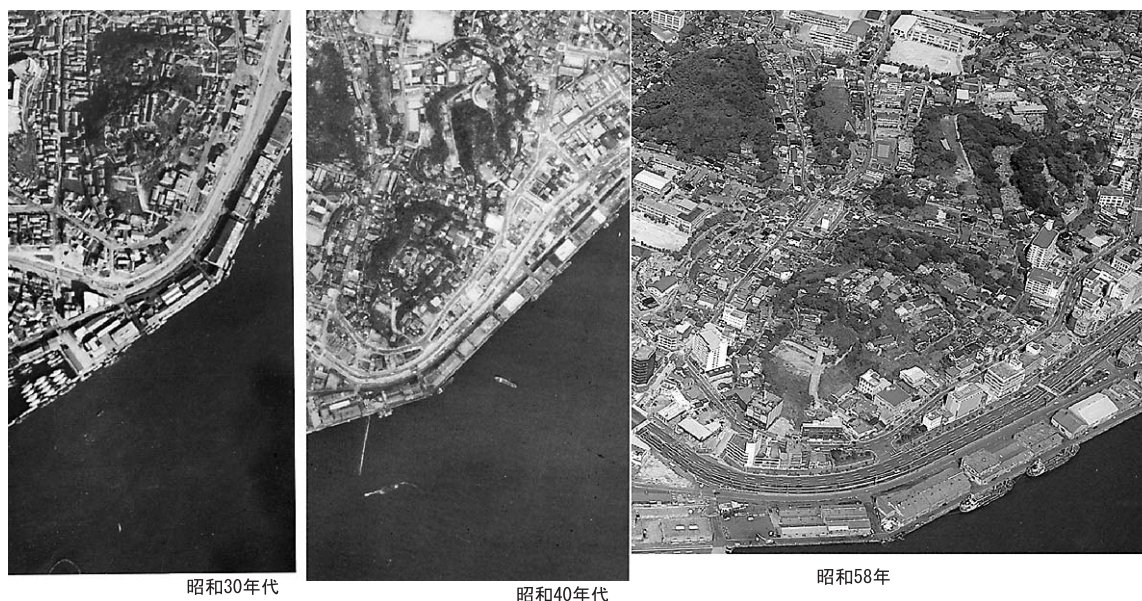


図7 昭和30年代から昭和50年代の南部町、観音崎町（空からみたふるさといまむかし）⁴⁾

2 調査の手続き

I 調査の方法

調査は調査員が個別世帯を訪問し、聞き取りもしくは記入したものを一定期間置いた後に回収する方法により行った。

II 調査対象 下関市南部町および観音崎町

III 調査期間 平成22年2月28日（日）～平成22年3月8日（月）

IV 回収率等

配布票数 161 枚（うち 44 枚は無記入のまま回収） 有効回収票数 54 枚 回収率 33.5%

3 調査項目

本アンケートの調査項目は、問1として住居の属性3項目、問2として対象世帯の属性5項目、問3として住居に関する質問15項目、問4として生活に関する質問11項目、問5として地域に関する質問2項目の合計36項目であった。（詳細は「地域の生活に関するアンケート調査」を参照）

4 調査結果

I 属性

各項目の詳細については集計表を参照していただきたい。ここでは集計結果の主だった点について触れる。まず属性に関する集計をみる。

問1.1) 住まいは観音崎町が9人（17%）、南部町が45人（83%）であった。問1.2) 居住歴は5年未満6%、5～10年13%、10年～20年7%、20年以上74%であった。20年以上で記述があるものの平均は46.9年、頻度は50～59年が最も多かった（図8）。戦後間もなくから40年前頃

までに住みはじめた人が多い事を示している。問1.3) から、以前の住まいは下関市内が多く(59%)、次いで子供の頃から(19%)、市外から転居してきた人(15%)は少なかった。問2.1) 性別は男性57%、女性43%でほぼ半数、問2.2) 年齢は20代が0人、30代4%、40代7%、50代11%、60~65歳6%、65~70歳7%、70歳以上65%であった。平日の昼間を中心に調査をしたのでやや高めにバイアスがかかっていると思われるが、それを考慮しても高齢者が非常に多い地域であるといえる。問2.3) 職業は無職が67%で仕事を引退した人が多い。問2.4) 家族構成は単身(35%)、夫婦のみ(35%)が多く、老人の単身、夫婦二人暮らしが多い。18歳未満の子供がいる世帯は54世帯中4世帯(7%)であった。

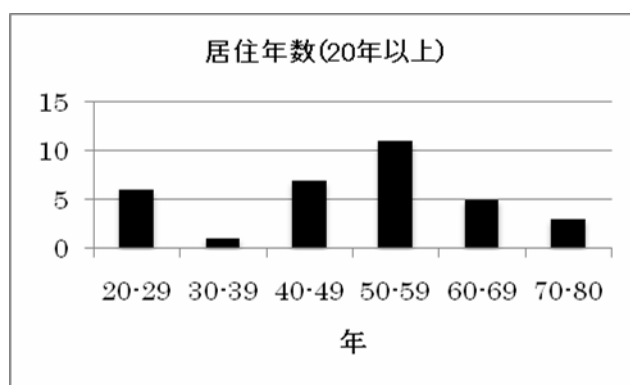


図8 居住年数の分布(20年以上で記述があるもの)

II 住宅

問3.1) 築年数は20年以上のものが49人(91%)と最も多い。対象地域に含めた「南部町マンションCOOP下関」は築27年の物件である。築年数の記述があったものが41人、うちマンションの11人を除いた30人の築年数(平均48.4年)を図9に示す。築年数41~50年が最も多く、老朽化した建物が増えつつあるのがわかる。また、建物の構造は、木造が36世帯(67%)と最も多かった。問3.2) 持家、借家の別は持家(土地所有)17%、持家(借地)30%、借家19%、マンション20%であった。借地が多いのは、地主がこの地域の土地を貸し出して、そこに自宅を新築したケースが多いからである。

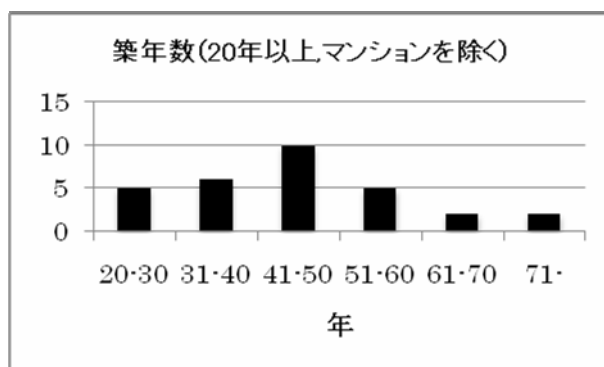


図9 築年数の分布(20年以上で記述があるもの、ただしマンションを除く)

Ⅲ 住環境

問3.3) 改修などの必要性を感じている人は26%であり、築年数を考えると意外に少なかった。問3.4) 住むきっかけは特に目立って多いものはなかった。問3.5) 良いと思う点は景観(31%)が最も多く、次いで住民の人間関係(22%)であった。生活条件が悪い地域では人間関係が深くなる傾向があるが、中心市街地であるこの地区でもその傾向がみられた⁵⁾。問3.6) 住みやすさでは、住みやすいと思う20%、思わない54%、よく分からない20%、未回答6%であった。長年住んでいるにもかかわらず住みやすくないと感じている人が多い。生活者にとって不利な条件の住居であるといえる。問3.7) 斜面や階段については、斜面が多い24%、斜面と階段が多い65%であった。問3.8) 空家や廃屋は61%の人が増えていると回答した。問3.9) 車が敷地まで入らないが65%で車の便は悪い。問3.10) 転居は、転居したいと思ったことがあると回答した人が28%で意外に少ない。高齢者が多いため、今から環境がいい家に改めて住み替える必要性をあまり感じていないものと思われる。問3.13) もし再開発されるなら反対(11%)はしないので、できれば住みやすい環境になることを望んでいるようだ。ただし、問3.14) 応分の負担が発生する場合は賛同しない(48%)人が多い。

Ⅳ 生活

問4.1) 生活して不便なことは、買い物が24%で最も多い。ただし、その他の27人のうち不便なことは無いと回答している人が24人であり、あまり不便を感じていないようである。問4.2) 高齢者にとって住みよいかどうかは46%が住み良いで問3(6)の住みやすいと思う20%より多い。また、30%が住みにくいと回答していて考えが分かれている。坂道や階段という高齢者に不利な面と、生活の便や近隣の人間関係といった利点が混在しているものと思われる。問4.4) 食料品や日用品の買い物はスーパーが最も多く73%で、問4.5) 買い物の距離は500m以内、1km以内がそれぞれ30%、52%であった。問4.6) 交通手段は徒歩(56%)が最も多く、次いで自家用車(19%)であった。高齢者でも階段を上り下りして歩いて買い物に出かけることが多い。また、隣近所で乗り合わせて自家用車で買い物に出かける人で、年齢的に運転が難しくなり次回の免許更新はしない、バス代が高いので車の運転は大変だが仕方なく運転しているというケースもあった。問4.7) 食料品や日用品の買い物で困ることは距離(41%)、坂道(26%)が多かった。

問4.8) 病院は8割以上の人に通っているが、頻繁に通っている人は少なく、週1回以上通院している人は約15%であった。問4.9) 通院の手段はやはり徒歩が多いが、買い物に比べてバスなどの公共交通機関を使う場合が22%と多い。問4.10) 通院で困る主な要因は階段や段差(18%)、距離(11%)が多かったが、困ることはないも44%おり、通院に関しても斜面であることを除けば便利がよい地域であるといえる。問4.11) 生活全体として困っていることは、特に注目すべき項目は見られなかった。

以上、今回のアンケート調査で回収した54件のデータについて、その概略をまとめた。ただし、回収枚数の少なさや、斜面地に限ってアンケートを実施した点、訪問による聞き取りや直接手渡し、直接回収の方法をとった点など、対象者のバイアスが多いと考えられる。したがって、データが実態を正確に表すものではない点に注意しなければならない。しかしながら、回答からは斜面地にお

ける様々な問題が明らかになった。以降では、データ数の問題から表面的には明らかになっていないが、このデータに潜在している斜面地生活の要因を、統計手法を使って顕在化することを試みる。

5 統計的分析

I クロス集計と独立性の検定

まず、1対の要因のクロス集計をとり、それらの独立性の検定により要因間の関係を明らかにする。アンケートデータはすべて質的変数として取り扱うべき項目データであるから、独立性の検定にはカイ2乗検定を用いる。カイ2乗検定は1対の名義尺度A、Bのクロス集計表に基づいて2変数間に関連があるかどうかを検定する。検定の手順は以下の通りである。

1) 仮説設定

帰無仮説 H_0 : 「2変数は独立である (関連がない)」

対立仮説 H_1 : 「2変数は独立ではない (関連がある)」

2) クロス集計

2個の質的変数A、B(2個のアンケート項目)にそれぞれm個、n個のカテゴリー(選択肢)があるとき、m行n列のクロス集計表ができる。2個の変数を独立であると仮定すると、実際のクロス集計表の度数(観測度数)から、表に対応する期待度数を算出することができる。期待度数と観測度数は2個の変数が完全に独立であるとき一致すると考えられる。

3) カイ2乗値

このとき、m個×n個の観測度数と期待度数の差の総和、すなわち乖離度は、2個の変数A、Bの独立性の尺度となる。この乖離度は次の式で表すことができ、これをカイ2乗値と呼ぶ。

カイ2乗値 = $((\text{観測度数} - \text{期待度数})^2 / \text{期待度数})$ の総和

4) カイ2乗分布

このようにして算出されるカイ2乗値(χ^2_0)は、自由度が(m-1)×(n-1)のカイ2乗分布に従う。

5) 帰無仮説の採否

有意確率をPとすると、 $P = \Pr\{\chi^2 \geq \chi^2_0\}$ は χ^2 分布表によって与えられ、

有意確率 $\Pr=0.05$ のとき : $\Pr\{\chi^2 \geq \chi^2_0\}=0.05$ (5%有意)

有意確率 $\Pr=0.01$ のとき : $\Pr\{\chi^2 \geq \chi^2_0\}=0.01$ (1%有意)

$P = \Pr\{\chi^2 \geq \text{クロス集計表から得られたカイ2乗値}\} < \text{有意確率}$ によって帰無仮説の採否を決める。

$P > \text{有意確率}$ のとき帰無仮説を採択する。すなわち2個の変数A、Bは独立でないとはいえない(関連があるとはいえない)

$P \leq \text{有意確率}$ のとき帰無仮説を棄却する。すなわち2変数は独立ではない(関連がある)

独立でないとはすなわち期待度数と観測度数に差があるということであるから、それぞれの度数の総和は等しいので、クロス集計表と対応する期待度数を比較すればどのような関係があるかを知ることができる。

例えば、問3.(6)と問3.(9)の例(表1)であれば、 $m \times n = 6$ 、 $P = 0.0003 < 0.001$ (したがって1%有意)、Cramerの $V = 0.4847$ (2変数の関係、大きいほど関係が強い)となる。また、「住みやすいと思わない」という項目に対して、車が「入る」場合に「思わない」の回答が減少し(つまり「車が入ると住みやすいと思わないが減少する」傾向にある)、「入らない」場合に「思わない」が増加する(つまり「車が入らないと住みやすいと思わない」傾向にある)。

以上のような方法でアンケート項目間の関係を分析する。全てのクロス集計を計算してもデータが多くなるばかりでありあまり意味が無いので、ターゲットとなる項目を「問3.(6) 斜面住宅(地)は、住みやすいと思いますか」と「問3.(13) もしこの地域が再開発されるとしたら、どう思われますか」の2個とした。これらは、斜面地住居の住みやすさに関する主観的な程度(満足度)を代表する項目である。これらの項目に対し、アンケート対象の属性を問う項目として「問1.(2) 居住年数」、「問2.(2) 年齢」、「問2.(4) 家族構成」、「問3.(2) 住居」、「問3.(7) 斜面や階段」、「問3.(9) 車乗入れ」、「問3.(10) 転居」、「問3.(14) 再開発の負担」、「問4.(2) 高齢者の住みよさ」、「問4.(8) 通院頻度」の10項目を選んだ。問3.(6)と問3.(13)のクロス集計を合わせて21個のクロス集計表を作成し、カイ2乗検定を行った。結果を表2、表3に示す。なお、カイ2乗検定では、クロス集計表内の要素のサンプル数が多いほど良い結果が得られるため、通常サンプル数が少ない要素を併合して計算を行うが、本調査でもいくつかの項目で要素を併合した。したがって、クロス集計表のいくつかの選択肢でアンケート票とは異なっている。また、「未回答」選択肢はどれもサンプル数が少ないが、結果に大きな影響は与えないと思われるのでそのままとした。

カイ2乗検定の結果は、「問3.(6) 斜面住宅(地)は、住みやすいと思いますか」に対して、5%有意が2項目、1%有意が6項目、有意差無が3項目であった。また、「問3.(13) もしこの地域が再開発されるとしたら、どう思われますか」に対しては、5%有意が1項目、1%有意が4項目、有意差無が5項目であった。問3.(6)と問3.(13)の両方に対して5%有意以上の有意差があった項目は次の通りである。

表1 クロス集計とカイ2乗検定

	問3.(6) 斜面住宅(地)は、住みやすいと思いますか				
問3.(9) 車乗入れ	思う	思わない	よく分からない	未回答	合計
入る	3	7	5	1	16
入らない	8	21	6		35
未回答		1		2	3
合計	11	29	11	3	54
入る	3.26	8.59	3.26	0.89	16
入らない	7.13	18.80	7.13	1.94	35
未回答	0.61	1.61	0.61	0.17	3
合計	11	29	11	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P 値	判定(**:1% *:5%)	CramerのV
	25.3681	6	0.0003	**	0.4847

* 上段が実測値、下段が期待度数

表2 問3.(6)に対するクロス集計表

問3.(6) 斜面住宅(地)は、住みやすいと思いますか					
問1.(2) 居住年数	思う	思わない	よく分からない	未回答	合計
20年未満	1	9	3	1	14
20年以上	10	20	8	2	40
合計	11	29	11	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P値	判定(**:1% *:5%)	CramerのV
	2.113569189	3	0.549172511		0.1978
問2.(2) 年齢	思う	思わない	よく分からない	未回答	合計
65歳未満		11	2	2	15
65歳以上	11	18	9	1	39
合計	11	29	11	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P値	判定(**:1% *:5%)	CramerのV
	8.4874	3	0.0369	*	0.3965
問2.(4) 家族構成	思う	思わない	よく分からない	未回答	合計
単身	3	11	4	1	19
夫婦のみ	6	10	3		19
その他	2	8	4	2	16
合計	11	29	11	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P値	判定(**:1% *:5%)	CramerのV
	4.7769	6	0.5727		0.2103
問3.(2) 住居	思う	思わない	よく分からない	未回答	合計
持家	9	21	4		34
借家	2	3	2	1	8
マンション		5	5	1	11
未回答				1	1
合計	11	29	11	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P値	判定(**:1% *:5%)	CramerのV
	28.4368	9	0.0008	**	0.4190
問3.(7) 斜面や階段	思う	思わない	よく分からない	未回答	合計
斜面が多い	2	8	2	1	13
斜面と階段が多い	8	20	7		35
斜面や階段は多くない	1	1	2	1	5
未回答				1	1
合計	11	29	11	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P値	判定(**:1% *:5%)	CramerのV
	23.5843	9	0.0050	**	0.3816
問3.(9) 車乗入れ	思う	思わない	よく分からない	未回答	合計
入る	3	7	5	1	16
入らない	8	21	6		35
未回答		1		2	3
合計	11	29	11	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P値	判定(**:1% *:5%)	CramerのV
	25.3681	6	0.0003	**	0.4847

問 3.(10) 転居	思う	思わない	よく分からない	未回答	合計
ある	1	14			15
ない	5	10	5	1	21
考えたことがない	5	4	4		13
未回答		1	2	2	5
合計	11	29	11	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P 値	判定(**:1% *:5%)	Cramer の V
	28.5447	9	0.0008	**	0.4198
問 3.(13) 再開発	思う	思わない	よく分からない	未回答	合計
賛成である	2	14	3		19
反対である	3	1	2		6
どちらでもない	5	14	6	1	26
未回答	1			2	3
合計	11	29	11	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P 値	判定(**:1% *:5%)	Cramer の V
	31.3976	9	0.0003	**	0.4402
問 3.(14) 再開発の負担	思う	思わない	よく分からない	未回答	合計
賛同する	1	3	2		6
賛同しない	5	16	5		26
分からない	4	10	4	1	19
未回答	1			2	3
合計	11	29	11	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P 値	判定(**:1% *:5%)	Cramer の V
	25.3108	9	0.0026	**	0.3953
問 4.(2) 高齢者の住みよさ	思う	思わない	よく分からない	未回答	合計
住みよい地域である	8	9	6	2	25
住みにくい地域である		15	1		16
考えたことが無い	3	4	4	1	12
未回答		1			1
合計	11	29	11	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P 値	判定(**:1% *:5%)	Cramer の V
	17.1137	9	0.0470	*	0.3250
問 4.(8) 通院頻度	思う	思わない	よく分からない	未回答	合計
週1回以上	1	4	3		8
週1回以下	10	25	8	3	46
合計	11	29	11	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P 値	判定(**:1% *:5%)	Cramer の V
	2.1841	3	0.5351		0.2011

表3 問3.(13)に対するクロス集計表

問3.(13) もしこの地域が再開発されるとしたら、どう思われますか					
問1.(2) 居住年数	賛成である	反対である	どちらでもない	未回答	合計
20年未満	4	3	6	1	14
20年以上	15	3	20	2	40
合計	19	6	26	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P値	判定(**:1% *:5%)	CramerのV
	2.241281087	3	0.523863129		0.2037
問2.(2) 年齢	賛成である	反対である	どちらでもない	未回答	合計
65歳未満	6	1	7	1	15
65歳以上	13	5	19	2	39
合計	19	6	26	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P値	判定(**:1% *:5%)	CramerのV
	0.5617	3	0.9051		0.1020
問2.(4) 家族構成	賛成である	反対である	どちらでもない	未回答	合計
単身	8	2	8	1	19
夫婦のみ	5	3	11		19
その他	6	1	7	2	16
合計	19	6	26	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P値	判定(**:1% *:5%)	CramerのV
	4.4588	6	0.6148		0.2032
問3.(2) 住居	賛成である	反対である	どちらでもない	未回答	合計
持家	16	3	14	1	34
借家	1	2	5		8
マンション	2	1	7	1	11
未回答				1	1
合計	19	6	26	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P値	判定(**:1% *:5%)	CramerのV
	24.3694	9	0.0038	**	0.3879
問3.(7) 斜面や階段	賛成である	反対である	どちらでもない	未回答	合計
斜面が多い	4	2	7		13
斜面と階段が多い	14	3	17	1	35
斜面や階段は多くない	1	1	2	1	5
未回答				1	1
合計	19	6	26	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P値	判定(**:1% *:5%)	CramerのV
	21.6194	9	0.0102	*	0.3653
問3.(9) 車乗入れ	賛成である	反対である	どちらでもない	未回答	合計
入る	4	3	9		16
入らない	15	3	16	1	35
未回答			1	2	3
合計	19	6	26	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P値	判定(**:1% *:5%)	CramerのV
	25.4018	6	0.0003	**	0.4850

問 3.(10) 転居	賛成である	反対である	どちらでもない	未回答	合計
ある	10		5		15
ない	6	4	11		21
考えたことがない	3	1	8	1	13
未回答		1	2	2	5
合計	19	6	26	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P 値	判定(**:1% *:5%)	Cramer の V
	24.2362	9	0.0039	**	0.3868
問 3.(14) 再開発の負担	賛成である	反対である	どちらでもない	未回答	合計
賛同する	3		3		6
賛同しない	13	6	7		26
分からない	3		16		19
未回答				3	3
合計	19	6	26	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P 値	判定(**:1% *:5%)	Cramer の V
	71.5580	9	0.0000	**	0.6646
問 4.(2) 高齢者の住みよさ	賛成である	反対である	どちらでもない	未回答	合計
住みよい地域である	5	5	13	2	25
住みにくい地域である	11		5		16
考えたことが無い	2	1	8	1	12
未回答	1				1
合計	19	6	26	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P 値	判定(**:1% *:5%)	Cramer の V
	16.6171	9	0.0551		0.3203
問 4.(8) 通院頻度	賛成である	反対である	どちらでもない	未回答	合計
週1回以上	4	1	3		8
週1回以下	15	5	23	3	46
合計	19	6	26	3	54
独立性の検定	カイ2乗値	自由度	P 値	判定(**:1% *:5%)	Cramer の V
	1.3450	3	0.7185		0.1578

問 3.(6)のみに有意であった項目は、問 2.(2)「年齢」、問 4.(2)「高齢者にとっての住みやすさ」であり、「年齢」が「住みやすさ」の評価と「開発に賛成か反対か」の評価の差に影響していることがわかった。問 3.(6)と有意差があった2つの項目について、期待度数と観測度数の乖離を見ると、問 2.(2)では65歳以下の層で「住みやすいと思わない」傾向にあり、65歳以上で「住みやすいと思う」傾向がみられた。すなわち年齢が高いほど住みやすいと思う傾向があり、年齢と住みやすさは正の相関関係にあると言える。また、問 4.(2)からは「高齢者に住み良い」と感じている層は一般的に「住みやすいと思う」傾向にあり、「高齢者に住みにくい」と感じている層は一般的に「住みやすいと思わない」傾向がみられた。すなわち高齢者に住み良いと感じている人は一般的にも住みやすいと感じ、高齢者の住み良さと一般的な住みやすさは正の相関関係があると言える。

「問 1.(2) 居住年数」、「問 2.(4) 家族構成」、「問 4.(8) 通院頻度」については問 3.(6)と問 3.(13)のクロス表において有意な関係は見られなかった。

■問3.(6)、問3.(13)の両方と関係がある項目（5%有意以上）

問3.(2) お住まいの家は（持家、借家、マンション）

問3.(7) お住まいの地域は斜面や階段の多い地域ですか（斜面が多い、斜面と階段が多い、斜面や階段は多くない）

問3.(9) 敷地まで車が入りますか（入る、入らない）

問3.(10) 出来れば売却して転居したいと思っただけがありますか（ある、ない、考えたことがない）

問3.(14) その場合、応分の負担が発生する場合はどうですか（賛同する、賛同しない、分からない）

また、問3.(6)と問3.(13)のクロス集計では1%有意で関係がみられた。このことから、問3.(6)と問3.(13)に代表される住民の満足度は、主に住宅の所有に関する項目（問3.(2)、問3.(10)、問3.(14)）および生活の困難さ（問3.(7)、問3.(9)）であると考えられる。

II 多変量解析による要因の抽出

クロス集計表およびカイ2乗検定からは、1対の変数の関係が明らかになった。そこでさらに、アンケート項目から住民の満足度に影響する主要な要因を抽出して、その要因と満足度の関係を明らかにする。すなわち、1対の関係だけでなく複数の変数間の関係を明らかにする。複数の変数の関係を見るため、多変量解析による分析を行う。手法としては2種類が考えられる。数量化理論Ⅱ類は複数の質的な要因（説明変数）によって1つの質的な外的基準を予測（判別）するための方法である。数量化理論Ⅱ類は、カイ2乗検定が1対の変数の関係のみを調べるのに対し、複数の説明変数を用いることができ、さらに判別関数のウェイト（アイテムカテゴリー）によって、個々の説明変数の外的基準への影響を数値化することができるので、他の変数の影響を排除しつつ個々の説明変数と外的基準との関係を把握することができる。ただし、外的基準を判別する空間を定義するための軸を2軸しかとることができない。外的基準の潜在的な要因（説明変数の縮約）が3軸以上有った場合に、ウェイトの解釈が難しい。

一方数量化理論Ⅲ類は、3軸以上を設定することができ、変数間（外的基準は無い）の相関を数値化することが可能である。したがって、3軸以上のモデルにおいて変数間の相関を見ることができ、カテゴリー（選択肢）のウェイトは求められない。そこで、以下では数量化理論Ⅲ類で変数のおおまかな構造を明らかにし、さらに変数間の相関関係を平面上にマップし、問3.(6)、問3.(13)に代表される主観的評価に影響する要因を抽出する。さらに、数量化理論Ⅱ類により、選択肢と主観的評価のウェイトを求める。

1) 数量化理論Ⅲ類による変数構造の分析

数量化理論Ⅲ類の目的は、アンケート項目の潜在的な要因を抽出し、それらに影響する代表的な変数を選び出すことである。すなわち多数のアンケート項目をいくつかの要因で代表させ、その要因と相関の高い項目を抽出し、変数の意味構造を明らかにすることが目的となる。したがって、まず潜在要因に影響しそうなアンケート項目（変数）をできるだけ多くとって数量化理論Ⅲ類で相関を確かめる。ただし、主観的評価に関する変数である問3.(6)、問3.(13)は、外的基準として当

然必要になるのでこの時点では変数セットから除いておく。10個の変数候補（問1.2）、問2.2）、問2.4）、問3.1）、問3.2）、問3.3）、問3.7）、問3.8）、問3.9）、問4.5）を選び出し数量化理論Ⅲ類を使って分析した。全変数を2次元平面上で観察するため、解の数の設定を2個とした。

図10は得られたカテゴリースコアからカテゴリー間の関係をマップしたものである。横軸が解1（第1軸）、縦軸が解2（第2軸）のスコアを表す。プロットされた点は選択肢を意味し、変数（アンケート項目）ごとにマーカーを変えている。このマップから、変数の配置は大きく3種類に分けることができる。要因1は選択肢が右上から左下（左中段）へと分布する変数である。問1.2）、問2.2）、問2.4）、問3.1）などが該当し、年数あるいは家族構成（広い意味で年代に関係している）に関する変数である。要因2は左中段から右下に分布する変数で、問3.3）、問3.7）、問3.8）、問3.9）、問4.5）などで、生活の不利さに関する変数であると思われる。要因3は問3.2）が該当し、住宅の所有に関する要因であると思われる。以上から、用いた10個の変数には3個の潜在要因があり、変数の意味からそれぞれ「年齢と居住年数」の要因、「生活条件の不利さ」の要因、「住宅の所有」の要因と推測することができる。

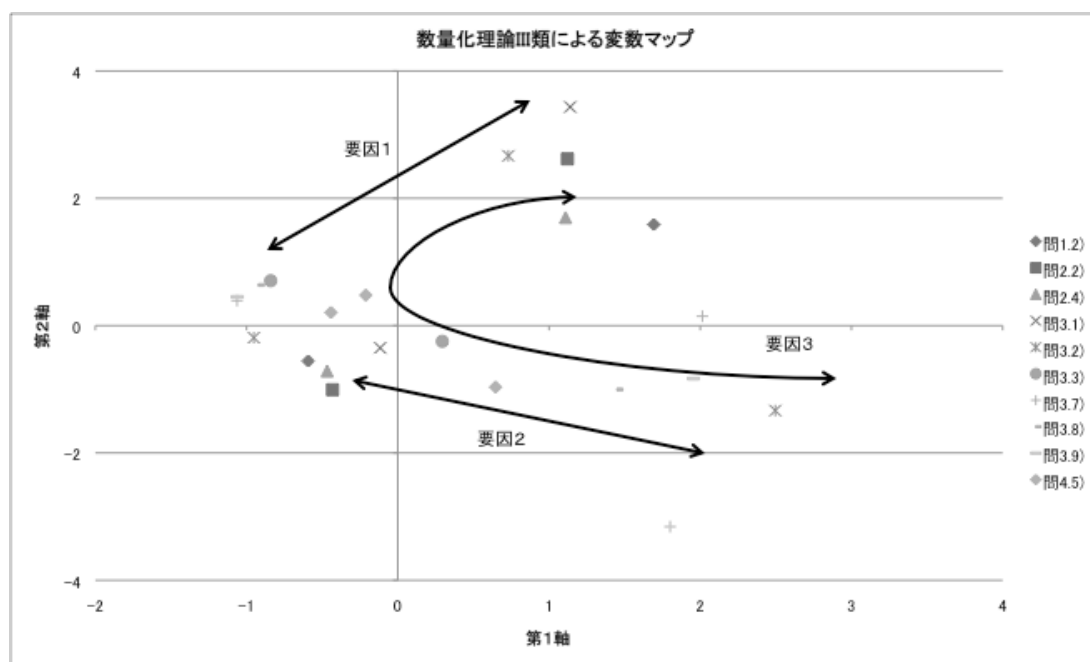


図10 数量化Ⅲ類による変数マップと抽出された要因

2) 数量化理論Ⅲ類による3個の潜在要因と主観的評価の関係

次に、抽出された3個の潜在要因を代表するいくつかの変数に2個の主観的評価を加えた変数セットを使用し、数量化理論Ⅲ類で分析する。使用した変数は問1.(2)、問2.(2)（以上要因1）、問3.(2)（要因3）、問3.(7)（要因2）、問3.(6)、問3.(13)（以上主観的評価）である。図11、図12は得られたカテゴリースコアから変数の関係をマップしたものである。軸の数の設定は3個とし、1軸—2軸、1軸—3軸の変数マップを作成した。

図11の第1軸をみると、右のエリアに問1.(2)（現在のお住まいにいつごろから住んでいますか）の選択肢1（20年未満）、問2.(2)（あなたの年齢は）の選択肢1（65歳未満）が分布しており、左のエリアには問1.(2)の選択肢2（20年以上）、問2.(2)の選択肢1（65歳以上）が分布している。すなわち第1軸は「年齢と居住年数」を表す潜在因子であると考えられる。この軸の寄与率は24.37%で最も影響が大きい軸であった。クロス集計表とカイ2乗検定では年代と主観的評価に強い関係は見られなかったが、多変量解析では第1軸として抽出されている点は興味深い。

第2軸では、上のエリアに問3.(7)（お住まいの地域は斜面や階段の多い地域ですか）の選択肢3（斜面や階段は多くない）が分布し、選択肢1（斜面が多い）と選択肢2（斜面と階段が多い）が分布している。したがって、第2軸は「生活条件の不利さ」を表す潜在因子であると考えられる。主観的評価では問3.(13)の再開発について、上から選択肢2（反対である）、選択肢3（どちらでもない）、選択肢1（賛成である）と分布していて、生活条件が不利な場所に住む住人ほど再開発に賛成であることがわかる。住みやすさの主観的評価の問3.(6)では、上から選択肢3（よく分からない）、選択肢1（思う）、選択肢2（思わない）という順に分布している。生活環境が不利な地域では、やはり住みやすいと思わないようである。また、主観的評価は年齢、居住年数にも関係していて、若い世代ほど再開発に反対で、住みにくいと感ずる傾向があり、この軸では評価のねじれが見られる。したがって、「再開発に賛成」する選択肢は「住みやすいと思わない」選択肢と近い位置にあるが、「住みやすいと思う」の選択肢にも比較的近い位置にあるという結果になっている。住みやすさと再開発への思いという主観評価は、その傾向が単純に一致するものではなく、年齢と環境の困難さが複雑に影響する評価項目であることがこの結果からうかがえる。

図12の第3軸をみると、属性変数問3.(2)以外の変数に特徴は見当たらない。したがって、第3軸は「住宅の所有」に関する潜在因子であると考えられる。右上に選択肢3（マンション）、左中段に選択肢1（持家）、右下に選択肢2（借家）が分布している。持家の多くが借地であることを考慮すると、上から下にかけて転居が難しくなると捉えることができる。また、第1軸からマンション、借家の住人は比較的若くて居住年数が短いことがわかる。主観的評価の関係では、問3.(13)から移動が難しくなるにつれて反対から賛成に向かう傾向がみられ、問3.(6)から移動がしやすいほど住みやすいと思う（住みやすいと思うからたとえ移動ができてもしない）ということがわかる。また、住みやすいと思う選択肢が左上にあることから、高齢者や斜面地で長い間生活している借家の住人は再開発に反対であり、生活を大きく変えたくないと感じていることが読み取れる。これは持家の場合も同じことがいえて、結果として図11において、持家の選択肢が再開発に賛成の選択肢と近い位置に配置されることになった。すなわち、持家でも再開発に反対というわけ

ではないという傾向をみてとることができる。

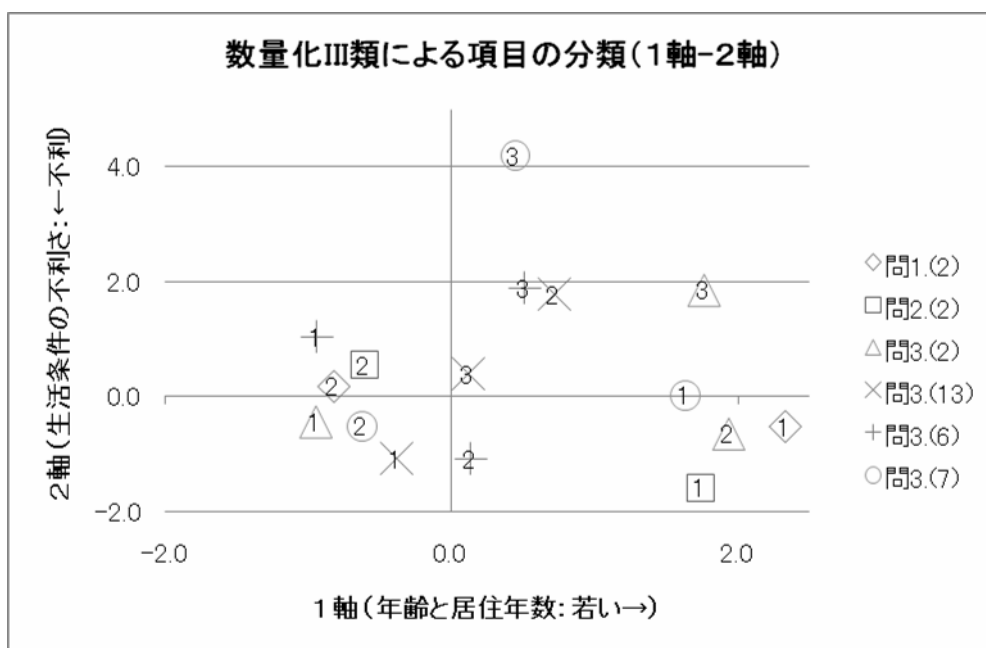


図11 数量化理論Ⅲ類による変数の分布（第1軸—第2軸）

※マーカーは囲んだものが属性変数、×+が主観的評価を表し、マーカー内の数字は選択肢番号を表す（図12も同様）。第3軸までの累積寄与率は56.9%。

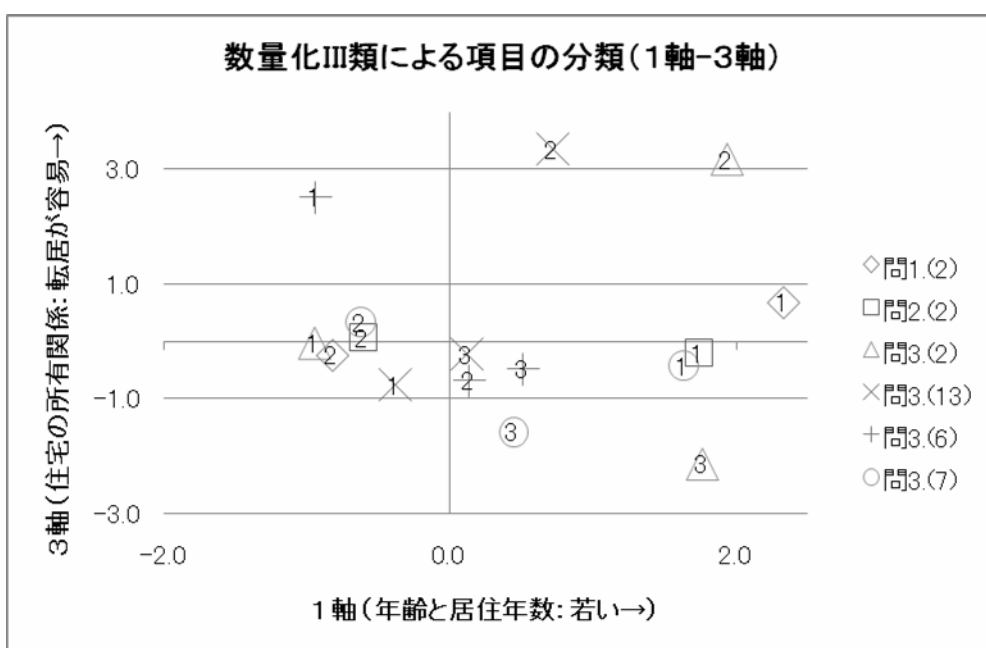


図12 数量化理論Ⅲ類による変数の分布（第1軸—第3軸）

表4 数量化理論Ⅲ類におけるアイテムカテゴリー表

アイテム	カテゴリー番号:カテゴリー
問 1.(2) 現在のお住まいにいつごろから住んでいますか	01: 20 年未満
	02: 20 年以上
問 2.(2) あなたの年齢は	01: 65 歳未満
	02: 65 歳以上
問 3.(2) お住まいの家は	01: 持家
	02: 借家
	03: マンション
問 3.(13) もしこの地域が再開発されるとしたら、どう思われますか	01: 賛成である
	02: 反対である
	03: どちらでもない
問 3.(6) 斜面住宅(地)は、住みやすいと思いますか	01: 思う
	02: 思わない
	03: よく分からない
問 3.(7) お住まいの地域は斜面や階段の多い地域ですか	01: 斜面が多い
	02: 斜面と階段が多い
	03: 斜面や階段は多くない。

3) 数量化理論Ⅱ類による分析

数量化理論Ⅱ類では、複数の変数をモデルに組み込んだ場合の、個々の変数が主観的評価に与えるウェイトを算出する。結果を表5に示す。変数(アイテムカテゴリー)は表4と同じものを用いた。ただし、外的基準にとった変数は目的変数から除外している。

表5の結果から、各変数のカテゴリースコアと外的基準の重心の傾向を調べる。外的基準の重心と同じ傾向を示すスコアは、そのカテゴリーが外的基準の該当カテゴリーと正の相関があることを示す。カテゴリースコアは2個の主観的評価(問3.(6)、問3.(13))について、それぞれ2軸計算でき、重心ベクトルの向きは軸によって異なる。

問3.(6)では、第1軸の重心の値が「よく分からない」、「思う」が正の値、「思わない」が負の値となっている。したがって、住みやすさと各変数の関係は、問1.(2)「現在のお住まいにいつごろから住んでいますか」の「20年未満」が「住みやすいと思わない」、「20年以上」が「住みやすいと思う」、問2.(2)「あなたの年齢は」の「65歳未満」が「住みやすいと思わない」、「65歳以上」が「住みやすいと思う」、問3.(2)「お住まいの家は」の「持家」が「住みやすいと思わない」、「借家」「マンション」が「住みやすいと思う」、問3.(13)「もしこの地域が再開発されるとしたら、どう思われますか」の「賛成である」が「住みやすいと思わない」、「反対である」が「住みやすいと思う」、問3.(7)「お住まいの地域は斜面や階段の多い地域ですか」では「斜面が多い」が「住みやすいと思わない」、「斜面と階段が多い」「斜面や階段は多くない」では「住みやすいと思う」という傾向になった。最後の問3.(7)についてはカテゴリースコアのレンジ(最大値と最小値の差)が小さいので明確に差があるとはいえないが、「斜面と階段が多い」のとき「住みやすいと思う」となった点は意外であった。しかし、それ以外のカテゴリースコアは概ねクロス集計と数量化理論Ⅲ類の結果をフォローするものである。第2軸についても同様に傾向を読み取ることができる。結果としては第1軸と同様の傾向を示しているが、問2.(2)の年齢に関してはレンジが小さい、問3.(2)で持家とマンションの傾向が逆転している、「斜面と階段が多い」のとき「住みや

すいと思わない」傾向が明確である、といった点で第1軸と異なった結果になった。すなわち第2軸では生活条件の不利と住みやすく思わないが一致している。このことは、住宅の所有、年齢・居住年数、生活条件の関係が住みやすさに複雑（非線形）に影響していることを示している。

次に、外的基準に問3.(13)をとった場合の結果をみる。第1軸の重心の値は「賛成である」、が正の値、「反対である」が負の値、「どちらでもない」が0に近い値となっている。したがって、再開発と各変数の関係は、問1.(2)「現在のお住まいにいつごろから住んでいますか」の「20年未満」が「反対である」、「20年以上」が「賛成である」、問2.(2)「あなたの年齢は」の「65歳未満」が「賛成である」、「65歳以上」が「反対である」、問3.(2)「お住まいの家は」の「持家」が「賛成である」、「借家」が「反対である」、「マンション」が「どちらでもない」、問3.(6)「斜面住宅(地)は、住みやすいと思いますか」の「思う」が「反対である」、「思わない」が「賛成である」、問3.(7)「お住まいの地域は斜面や階段の多い地域ですか」では「斜面が多い」「斜面と階段が多い」で「どちらでもない」、「斜面や階段は多くない」では「反対である」という傾向になった。問3.(7)で、生活条件が不利な地域で「どちらでもない」という傾向になった以外は、これまでの傾向を素直に反映した結果となった。また、第2軸では、賛成と反対の重心が近く、これらを判別する材料にならないという結果になった。再開発については、属性の値に対して単純に賛成か反対かというよりも、年齢や今後の生活設計（病気や介護、子供の問題）等の要因が複雑に影響して評価に繋がっていると考えられる。

表5 数量化理論Ⅱ類によるカテゴリースコア

アイテム	カテゴリー番号:カテゴリー	問3.(6)		問3.(13)	
		第1軸	第2軸	第1軸	第2軸
問1.(2) 現在のお住まいにいつごろから住んでいますか	01: 20年未満	-0.86	0.28	-0.95	-1.21
	02: 20年以上	0.30	-0.10	0.33	0.43
問2.(2) あなたの年齢は	01: 65歳未満	-0.78	-0.01	0.65	-0.37
	02: 65歳以上	0.28	0.00	-0.23	0.13
問3.(2) お住まいの家は	01: 持家	-0.56	-0.68	0.13	-1.07
	02: 借家	1.31	-0.17	-0.58	1.36
	03: マンション	0.94	2.36	-0.02	2.57
問3.(13) もしこの地域が再開発されるとしたら、どう思われますか	01: 賛成である	-0.27	0.43	0.42	-0.34
	02: 反対である	1.39	-0.59	-1.17	-0.43
	03: どちらでもない	-0.13	-0.19	-0.04	0.36
問3.(6) 斜面住宅(地)は、住みやすいと思いますか	01: 思う	0.59	-0.79	-1.17	0.07
	02: 思わない	-0.46	0.02	0.52	0.24
	03: よく分からない	0.67	0.66	-0.31	-0.70
問3.(7) お住まいの地域は斜面や階段の多い地域ですか	01: 斜面が多い	-0.36	-1.03	-0.07	-0.64
	02: 斜面と階段が多い	0.11	0.46	0.07	0.42
	03: 斜面や階段は多くない	0.17	-0.84	-0.35	-1.62

※問3.(6)または問3.(13)を外的基準に使った分析では、いずれもそれ自身のスコアは算出されず、代わりに軸の重心が求められる。斜体の数字はそれぞれの軸の重心である。

分析の有効性を示す各軸の相関比は、問3.(6)が第1軸0.2981、第2軸0.2246、問3.(13)が第1軸0.2371、第2軸0.1358であった。

6 おわりに

本報告では、下関市の中心市街地に分布する斜面地住宅の生活問題について明らかにすることを目的に、南部町および観音崎町において実施したアンケート調査から導出した結果を報告した。また、この地域の集落の形成過程や周辺の施設等の環境についても触れ、このような環境が生活の主観的評価に影響していることを示唆した。一般に、生活条件が不利な場合に暮らしやすさが低下する。しかしながら、本調査によって条件不利が周囲の人間関係等の環境に相殺されるケースもありうるということが推察された。サンプルデータが少ないために、複雑な条件については十分に分析することができなかったが、今後のさらなる調査によって斜面地の生活問題をより明確に捉えることが可能である。

謝 辞

アンケート調査の企画や内容の検討にあたっては、下関市総合政策部企画課および財団法人下関 21 世紀協会にご協力をいただきました。この場を借りて深く感謝いたします。調査実施にあたっては、下関市立大学国際商学科の守屋喬樹君、西田味加さん、唐戸サテライトスタッフの方々に協力していただきました。また、快く調査に協力していただいた南部町、観音崎町の住民の方々にも深く感謝いたします。

また、下関市立大学の吉津直樹教授には貴重な資料を提供していただき、またご指導をいただきました。叶堂隆三教授には講義を通じて斜面地問題について多くの示唆に富んだお話を聞かせていただきました。誠にありがとうございました。

《参考文献》

- 1) 下関市教育委員会編、『下関の地名』、下関市教育委員会、1976 年
- 2) 下関市市史編修委員会編、『天保九年赤間関人別帳（下関郷土資料 1）』、防長資料出版社、1959 年
- 3) 工藤洋三著、『写真が語る山口県の空襲米軍が記録した偵察・攻撃・損害』、2006 年
- 4) 中原雅夫監修、吉津直樹ほか執筆、『空から見たふるさといまむかし：下関市』、クォリティ出版、1983 年
- 5) 叶堂隆三、都市の斜面地の住民生活とコミュニティの形成—広島県呉市両城地区における住居の展開と住民の社会関係—、下関市立大学論集、第 53 巻、第 3 号、pp.33-44、2010 年

【付録】 南部町、観音崎町の様子 1



南部町マンション COOP 下関からの斜面
便利のいいマンションから1段上がると車が入らない斜面地になる



階段の上に立てられた家屋
住人の移動は専ら徒歩であるが、階段や坂道が生活道路になっている



細い坂道と石垣の上の家屋



手摺が設置された階段
ほとんどの階段に手摺が設置されているが、夜間の帰宅時などで落下事故が度々起きている



急傾斜地崩壊危険区域の表示



休憩用のベンチ
市街地まで徒歩で買い物に出かける住人が多いため、休憩所は必須

【付録】 南部町、観音崎町の様子 2



住宅が取り壊され空き地になっている

建物が壊され空き地になっている。遠くに関門橋、手前に2～3年前に建ったマンション。対岸は門司（左）同じ場所。空き地にならずに廃墟が残る場合もあり、景観、治安の問題が残る（右）



落下防止の柵

手摺としても使われる。調査では使いやすい設備を作って欲しいという意見も聞かれた



築数百年の旧家

戦争で焼け残った家屋を増築・修築により保存している



椿谷と呼ばれていた地域

石段や古い石垣が残っている場所も多く、古くから集落が形成されていたことがわかる



平地からみた斜面地

2) この地域は高齢者にとって、住みよいですか。

1. 住みよい地域である 2. 住みにくい地域である 3. 考えたことが無い
⇒その理由は何ですか ()

3) 日常生活で利用する道路は通行するうえで、危険性を感じることや、そのような場所はありますか。

1. ある (具体的にどのような場所) 2. ない

4) 食料品や日用品の買い物にもっとも利用する店はどこですか。

1. 商店街や市場 2. スーパー 3. コンビニ 4. 近隣の小売店 5. その他
(よく利用されるお店の名前は)

5) 食料品や日用品の買い物にもっとも頻繁に利用する店までの距離はどの位ですか。

1. 500m 以内 2. 1 km 以内 3. 1 km 以上

6) 食料品や日用品の買い物に最も頻繁に利用する店まで、どのようにして行きますか。

1. 徒歩 2. 自転車
3. バスや電車等の公共交通機関 4. 自家用車
5. タクシー 6. 近所の人が買い物をしてくれる
7. 店が配達してくれる 8. その他 ()

7) 食料品や日用品の買い物で困ることはどのようなことですか (3つまで選んで下さい)。

1. 距離が遠い 2. 坂道
3. 階段や段差 4. 交通費が高い
5. 買い物を十分に出来ない 6. 困ることはない
7. 買い物に行かない 8. その他 ()

8) 病院にはどの位の頻度で行きますか。

1. 通院の必要はない 2. 毎日
3. 1週間に2～3回 4. 1週間に1回程度
5. 1ヶ月に2～3回程度 6. 1ヶ月に1回程度
7. 決まっていない 8. その他

9) 通院はどのようにして行きますか。

1. 通院していない 2. 徒歩
3. 自転車 4. バスや電車など公共交通機関
5. 自家用車 6. タクシー
7. その他 ()

10) 通院で困ることはどのようなことですか。

- | | |
|------------|--------------|
| 1. 通院していない | 2. 距離が遠い |
| 3. 坂道 | 4. 階段や段差 |
| 5. 交通費が高い | 6. 公共交通機関が無い |
| 7. 困ることはない | 8. その他 () |

11) 生活全体として、暮らしの中で困っていることや、気になること、悩みごと等がありますか。次の中からいくつでも選んで番号に○を付けてください。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 買い物が不便なこと | 2. 住まいの事 |
| 3. 病院への通院が不便なこと | 4. 自動車を使えないこと |
| 5. 役所や図書館など公共施設が遠いこと | 6. 舗道が整備されていないこと |
| 7. 交通の便が悪いこと | 8. 坂道や道路の傾斜がきついこと |
| 9. 空き家が多くなったこと | 10. 自家用車を置くスペースが無いこと |
| 11. 救急や消防等の救急に不安なこと | 12. 外出しにくいこと |
| 13. 特にない | 14. その他 () |

問 5. **地域について**お聞きします

1) 景観に気をつけて次のようなことをしていますか。

1. 自分の家の庭づくり（植栽や花壇など）に気をつけている
2. 景観を保つための活動にかかわったことがある
3. 空家や廃屋の保全や修復
4. 特に行っていない
- 5 その他

2) あなたが安心して生活を送るために、どのようなものがあれば良いと思いますか。

(自由にお書き下さい)。例：車が入れる道路等

.....
.....
.....
.....

**ご協力ありがとうございました。
回収用の封筒に入れて、封をしてお渡し下さい。**

結果をお知りになりたい方は、下記に宛名をお書き下さい。集計結果をお届けいたします。

ご住所 〒 _____

お名前 _____

問 1.(1) あなたのお住まいは				
観音崎町	南部町	合計		
9	45	54		
17%	83%	100%		
問 1.(2) 現在のお住まいにいつごろから住んでいますか				
1～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上(約年)	合計
3	7	4	40	54
6%	13%	7%	74%	100%
問 1.(3) 転居されて来られた場合、どちらから転居されてきましたか				
子どもの頃から	下関市内	下関市外	未回答	合計
10	32	8	4	54
19%	59%	15%	7%	100%
問 2.(1) あなたの性別は				
男性	女性	合計		
31	23	54		
57%	43%	100%		
問 2.(2) あなたの年齢は				
20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳～65歳未満
0	2	4	6	3
0%	4%	7%	11%	6%
65歳～70歳未満	70歳以上	合計		
4	35	54		
7%	65%	100%		
問 2.(3) あなたのご職業は				
自営業、自由業	会社員、公務員、 団体職員	パートタイマー・ アルバイト	学生	家事専業
5	3	4	0	4
9%	6%	7%	0%	7%
無職	その他	合計		
36	2	54		
67%	4%	100%		
問 2.(4) あなたの(同居している)家族構成は				
単身	夫婦のみ	親子(2世代)	親・子・孫(3世代)	その他
19	19	11	2	3
35%	35%	20%	4%	6%
合計				
54				
100%				
問 2.(5) あなたの同居の家族に次の方はいますか				
就学前	小学生	中学生	16～18歳	65歳以上
1	2	2	2	10
2%	4%	4%	4%	18%
いない	未回答	合計		
27	12	56		
48%	21%	100%		

問 3.(1) 築年数と構造について				
1～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上	未回答
0	2	2	49	1
0%	4%	4%	91%	2%
合計				
54				
100%				
問 3.(2) お住まいの家は				
持家（土地所有）	持家（借地）	持家（未回答）	借家（戸建）	借家（未回答）
9	16	8	5	5
17%	30%	15%	9%	9%
マンション	合計			
11	54			
20%	100%			
問 3.(3) 改修（建替）などの必要性はどうか				
ある	ない	その他	未回答	合計
14	33	3	4	54
26%	61%	6%	7%	100%
問 3.(4) ここにお住まいになるようになったのは何ですか				
生家	勤務地の関係	環境の良さ	子供の為	便利の良さ
6	7	5	5	8
11%	13%	9%	9%	15%
結婚して	その他	未回答	合計	
8	9	6	54	
15%	17%	11%	100%	
問 3.(5) お住まいの地域で良いと思うものは何ですか				
自然環境	景観	住民の人間関係	祭りや行事	地区の施設
22	45	32	7	6
15%	31%	22%	5%	4%
空気がよい	車が入ってこない	その他	特にない	未回答
9	8	8	5	4
6%	5%	5%	3%	3%
合計				
146				
100%				
問 3.(6) 斜面住宅（地）は、住みやすいと思いますか				
思う	思わない	よく分からない	未回答	合計
11	29	11	3	54
20%	54%	20%	6%	100%
問 3.(7) お住まいの地域は斜面や階段の多い地域ですか				
斜面が多い	斜面と階段が多い	斜面や階段は多くない。	未回答	合計
13	35	5	1	54
24%	65%	9%	2%	100%

問 3.(8) お住まいの地域に空家や廃屋は増えていますか				
増えている	減っている	あまり変わらない	未回答	合計
33	2	15	4	54
61%	4%	28%	7%	100%
問 3.(9) 敷地まで車が入りますか				
入る	入らない	未回答	合計	
16	35	3	54	
30%	65%	6%	100%	
問 3.(10) 出来れば売却して転居したいと思っただことがありますか				
ある	ない	考えたことがない	未回答	合計
15	21	13	5	54
28%	39%	24%	9%	100%
問 3.(11) 住み続けるためには、この地域に必要なものはなんですか。				
道路などのインフラ整備	公園などの環境整備	地域の連携(自治)	活性化として新しい住民	その他
13	4	11	8	12
22%	7%	19%	14%	20%
未回答	合計			
11	59			
19%	100%			
問 3.(12) 住んでいて、不安なことはありますか				
地区の高齢化	空き家	住まいの立替やリフォーム	消火活動	災害
15	3	4	17	17
20%	4%	5%	23%	23%
その他	未回答	合計		
14	4	74		
19%	5%	100%		
問 3.(13) もしこの地域が再開発されるとしたら、どう思われますか				
賛成である	反対である	どちらでもない	未回答	合計
19	6	26	3	54
35%	11%	48%	6%	100%
問 3.(14) その場合、応分の負担が発生する場合はどうですか				
賛同する	賛同しない	分からない	未回答	合計
6	26	19	3	54
11%	48%	35%	6%	100%
問 3.(15) もし転居するとすれば、どのような地域が良いと思いますか				
病院が近い	商店街が近い	デパート・スーパーが近い	娯楽施設が近い	公共施設が近い
14	7	17	1	4
16%	8%	20%	1%	5%
交通の便が良い	中心市街地のマンション	市外	田園地帯	その他
15	4	2	6	13
17%	5%	2%	7%	15%

未回答	合計			
3	86			
3%	100%			
問 4.(1) 生活して不便なことはありますか				
通勤	買物	医療	地域の連携・交流	住まい
0	14	4	3	4
0%	24%	7%	5%	7%
その他	未回答	合計		
27	6	58		
47%	10%	100%		
問 4.(2) この地域は高齢者にとって、住みよいですか				
住みよい地域である	住みにくい地域である	考えたことが無い	未回答	合計
25	16	12	1	54
46%	30%	22%	2%	100%
問 4.(3) 日常生活で利用する道路は通行するうえで、危険性を感じることや、そのような場所はありますか				
ある	ない	未回答	合計	
25	28	1	54	
46%	52%	2%	100%	
問 4.(4) 食料品や日用品の買い物にもっとも利用する店はどこですか				
商店街や市場	スーパー	コンビニ	近隣の小売店	その他
10	49	7	0	1
15%	73%	10%	0%	1%
合計				
67				
100%				
問 4.(5) 食料品や日用品の買い物にもっとも頻繁に利用する店までの距離はどの位ですか				
500m 以内	1km 以内	1km 以上	未回答	合計
16	28	9	1	54
30%	52%	17%	2%	100%
問 4.(6) 食料品や日用品の買い物に最も頻繁に利用する店まで、どのようにして行きますか。				
徒歩	自転車	バスや電車等の公共交通機関	自家用車	タクシー
38	6	7	13	2
56%	9%	10%	19%	3%
近所の人が買い物をしてくれる	店が配達してくれる	その他	合計	
0	1	1	68	
0%	1%	1%	100%	
問 4.(7) 食料品や日用品の買い物で困ることはどのようなことですか				
距離が遠い	坂道	階段や段差	交通費が高い	買い物を十分に出来ない
29	18	9	5	4
41%	26%	13%	7%	6%

困ることはない	買い物に行かない	合計		
3	2	70		
4%	3%	100%		
問 4.(8) 病院にはどの位の頻度で行きますか。				
通院の必要はない	毎日	1週間に2～3回	1週間に1回程度	1ヶ月に2～3回
10	2	5	1	11
19%	4%	9%	2%	20%
1ヶ月に1回程度	決まっていない	その他	合計	
14	8	3	54	
26%	15%	6%	100%	
問 4.(9) 通院はどのようにして行きますか。				
通院していない	徒歩	自転車	バスや電車などの公共交通機関	自家用車
7	23	0	14	13
11%	35%	0%	22%	20%
タクシー	未回答	合計		
6	2	65		
9%	3%	100%		
問 4.(10) 通院で困ることはどのようなことですか。				
通院していない	距離が遠い	坂道	階段や段差	交通費が高い
7	7	4	11	2
11%	11%	7%	18%	3%
公共交通機関が無い	困ることはない	その他	未回答	合計
0	27	1	2	61
0%	44%	2%	3%	100%
問 4.(11) 生活全体として、暮らしの中で困っていることや、気になること、悩みごと等がありますか				
買い物が不便なこと	住まいのこと	病院への通院が不便なこと	自動車を使えないこと	役所や図書館など公共施設が遠いこと
9	5	4	8	0
10%	5%	4%	9%	0%
舗道が整備されていないこと	交通の便が悪いこと	坂道や道路の傾斜がきついこと	空き家が多くなったこと	自家用車を置くスペースが無いこと
0	1	10	8	9
0%	1%	11%	9%	10%
救急や消防等の救急に不安なこと	外出しにくいこと	特にない	その他	未回答
10	1	21	2	3
11%	1%	23%	2%	3%
合計				
91				
100%				

問 5.(1) 景観に気をつけて次のようなことをしていますか				
自分の家の庭づくり (植栽や花壇など)に 気をつけている	景観を保つための 活動にかかわった ことがある	空家や廃屋の保全 や修復	特に行っていない	その他
13	6	2	35	1
22%	10%	3%	59%	2%
未回答	合計			
2	59			
3%	100%			